

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第24週（6月13日～6月19日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに増加」

第24週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,800例であり、前週比9.5%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.40、0.88、0.82、0.49、0.30である。

感染性胃腸炎は前週比4%増の1,254例で、南河内9.19、三島7.65、中河内7.30、北河内7.08、大阪市北部6.79であった。

RSウイルス感染症は78%増の173例で、大阪市北部2.50、大阪市西部1.70、大阪市東部1.36である。RSウイルス感染症は6週連続で増加している。

咽頭結膜熱は8%増の161例で、泉州1.50、堺市1.42、大阪市南部1.00であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は37%増の96例で、中河内1.40、大阪市南部0.72、堺市0.58である。

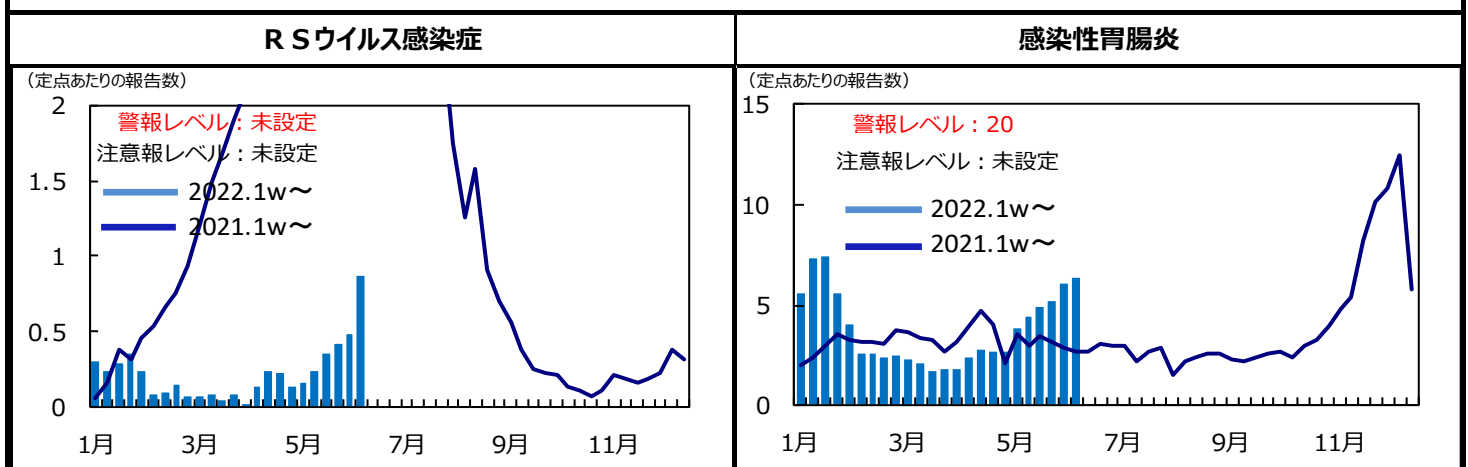


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第24週6月13日～6月19日）

第24週の順位	第23週の順位	感染症	2022年 第24週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第24週の 定点あたり 報告数	2022年第24週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	6.40	4%増	2.69	1歳_20%
2	3	RSウイルス感染症	0.88	78%増	3.76	1歳_27%
3	2	咽頭結膜熱	0.82	8%増	0.45	1歳_46%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	37%増	0.63	10-14歳_16%
5	5	突発性発しん	0.30	8%減	0.35	1歳_59%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第24週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

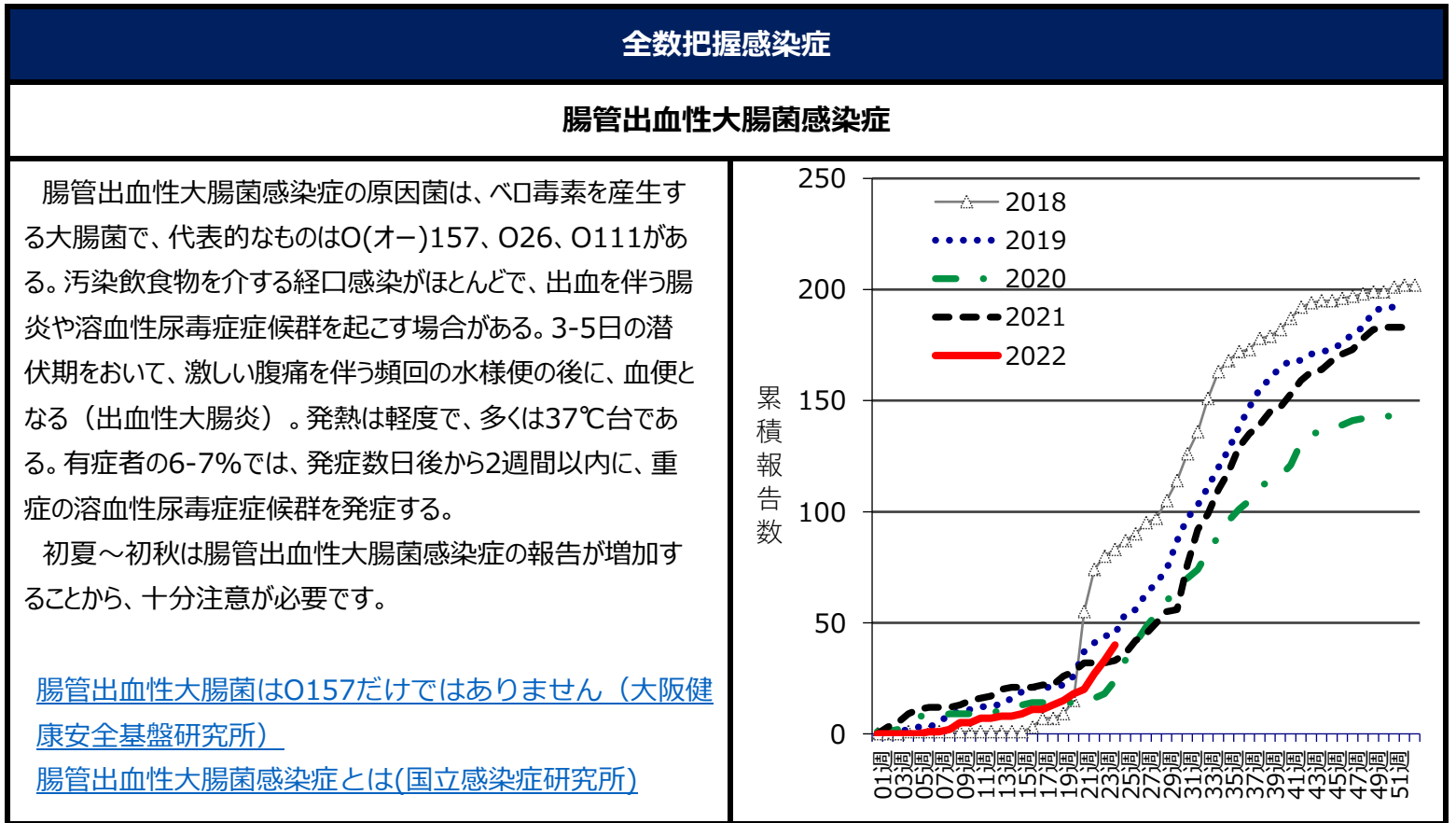


表2. 大阪府全数報告数(2022年 第24週6月13日～6月19日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別								府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7	1	2	1	2	1					40
4類感染症	E型肝炎	1									1	4
	つつが虫病	1		1								1
	マラリア(熱帯熱)	1									1	1
5類感染症	ウイルス性肝炎(C型)	1									1	6
	急性弛緩性麻痺	1									1	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1						1				7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					1				1	15
	後天性免疫不全症候群	2								1	1	41
	水痘(入院例)	1		1								8
	梅毒	20	4		2	1	2	1			10	614
	播種性クリプトコックス症	1									1	3
	百日咳	1			1							17
新型コロナウイルス感染症	7,810	2020年1月以降累計 998,358										
結核 (2022年4月分)	結核 新登録患者数: 76名		(内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 313名、内 肺・喀痰塗抹陽性 111名)									

(2022年6月21日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。